



フクロウの会(福島老朽原発を考える会)のブログ…<http://fukurou.txt-nifty.com/fukurou/>

もくじ

| | |
|--------------------------------|---|
| 火山リスク無視で進む川内原発の再稼働審査桜島も怒っているぞ！ | 1 |
| FFTV | 3 |
| 尿検査の新たな取り組み | 3 |
| パンフレット紹介 | 6 |
| 科学的とは何か 不安からの解放 | 6 |
| 福島ほかほかプロジェクト報告 | 7 |
| 集会等ご案内 | 8 |
| 活動日誌(3月23日~5月11日) | 8 |
| 会員・サポーター募集 | 8 |

フクロウの会

(福島老朽原発を考える会)

- フクロウの会は放射能汚染や事故の心配がなく、放射性廃棄物を生み出さない社会、すなわち原発のない社会をめざして首都圏で活動を続けてきた団体です。
- 今回残念ながら福島で重大な事故が起きてしまいましたが、事故による人々の被ばくが少しでも少なく抑えられるよう事故直後から情報提供、放射能測定プロジェクト、国や自治体への働きかけなどの活動を行ってきました。
- そんなフクロウの会の様々な活動を支えるための会員・サポーター・資金カンパ募集中です。ご協力いただけますと幸いです。

【カンパ送り先】

- ゆうちょ銀行からの振替
 - ・口座記号番号
00130-9-655439
 - ・口座名称(漢字)
福島老朽原発を考える会
 - ・口座名称(カナ)
フクシマロウキウゲンパツラカンガエルカイ
- 他の金融機関からの振込
 - ・銀行名= ゆうちょ銀行
 - ・金融機関コード 9900
 - ・店番 019
 - ・預金種目 当座
 - ・店名 〇一九店(ゼロイチキウウ店)
 - ・口座番号 0655439

火山リスク無視で進む川内原発の再稼働審査 桜島も怒っているぞ！

現在、原発再稼働の一番手として、原子力規制委員会において新規規制基準の審査が行われている九州電力の川内原発について、火山学者抜きで、火山リスクを十分に考慮しないままに審査が進んでおり、多くの火山学者が懸念の声を上げています。川内原発の周辺には桜島を含む始良(あいら)カルデラなど、カルデラを形成する巨大火山が林立しています。これが巨大(破局的)噴火を起こすと、火砕流が原発までとどき、原発は壊滅状態となります。死の灰を含む火山灰は日本全土を覆います。

▼火山学者抜きの審議で九州電力の主張が素通り

火山影響評価ガイドは、立地評価と影響評価の二段階に分かれています。立地評価では、設計対応不可能な火山事象が原子力発電所の運用期間中に影響を及ぼす可能性の評価を要求し、影響を及ぼす可能性が十分小さいと評価された場合でも、火山活動のモニタリングと火山活動の兆候把握時の対応を適切に行うことを影響評価に移る条件としています。

原子力規制委員会にも規制庁にも火山の専門家はいません。専門家は、火山審査評価ガイド作成時に、東大地震研の中田節也教授が、ヒアリングを受けただけです。その中田教授もヒアリングの場で、兆候の把握が困難であると発言しています。また、川内原発については、「本来あの場所には建てない方がよかった」「対策をとれる体制が確保できるまでは審査を通すべきではない」と述べています。

火山学者は、設計対応不可能な火山事象が原子力発電所の運用期間中に影響を及ぼす可能性について、九州電力が可能性は十分に小さいと主張していることについても、ひとつの考え方にすぎないと批判しています。原子力規制委員会の審査では、ほとんど議論されず、九州電力の主張がそのまま素通りとなっています。

▼島崎委員長代理の有識者会合開催方針を規制庁幹部が打ち消す会見

島崎委員長代理は、4月23日の107回審査会合で、「火山活動の兆候把握時の対応」に関わる判断基準について、火山学者を集めての検討を、原子力規制委員会としても実施する旨発言しました。しかし規制庁片山審議官はその2日後の25日に、異例の記者会見を開き、規制が要求するのは、「火山活動のモニタリング」であり、その後の対応は「中長期的な課題」「審査後の課題」と述べています。これは自らが定めた火山影響評価ガイドに反するものです。



兆候把握時の対処方針については、九州電力が判断基準を作成したところで、規制委・規制庁側で判断ができない状態にあります。再稼働してから中長期的に検討するというのは本末転倒です。

▼火山学会も火山噴火予知連会長も兆候をとらえる確証はないとしている

島崎委員長代理は、4月23日の107回会合で「火山活動の兆候把握時に対応」について、九州電力が示した、マグマの供給が現在の10倍程度になったら警戒体制に入るとした判断基準を甘いと批判しました。九州電力は5月16日の113回会合で、約5倍程度に書き直したものを提出しました。ところが、火山学者は、そもそも噴火の何年も前に巨大噴火の兆候をとらえる確証はないとしています。

火山予知連絡会の藤井会長は「我々は巨大噴火を観測したことがない。どのくらいの前兆現象が起きるか誰も知らない」と述べ、火山学会が設置した原発問題対応委員会も、兆候の把握を前提とした議論に異を唱えており、石原委員長も巨大噴火に至るかどうかの判断基準を作成するのは極めて難しいとの考えを示しています。

田中俊一委員長は5月2日の記者会見で、「しかるべき専門家の意見も拝聴しながら、火山予知学会の主要なメンバーに相談しながらやっている。」「破局的噴火は相当前から予知できると伺っている。」と回答しています。いつ誰と相談したのかは不明です。こそこそやっているのは非常に問題です。

▼兆候把握の根拠はギリシャのサントリー二島の例だけ！？

九州電力が、兆候の把握は可能だと主張する根拠は、巨大噴火の直前の100~1000年くらいの間に、マグマの供給量が増加するという事例です。ギリシャとアメリカの2例ですが、具体的な基準作成に用いたのは、ギリシャのサントリー二島(ドーナツ状の島全体がカルデラになっている)のミノワ噴火の岩石学的調査の事例です。

しかし、九州の始良カルデラの次の火山が、ギリシャの過去の噴火と同じ状況である保障はありません。たった1回のしかも海外の噴火事例を適用するのはあまりに無理があります。桜島はサン

トリー二島ではありません。火山には個性があり、噴火の仕方は違うとみるのが当たり前だと火山学者も指摘しています。

3月19日の95回審査会合で、島崎委員長代理は、九州電力が兆候の把握が可能な根拠として示した事例(岩石学的調査)が、海外の火山についての事例であることを問題にし、もし日本の事例で、逆に兆候の把握ができないことを示す結果が出たら立地不適になる旨発言したところ、九州電力は、問題のカルデラについて調査の準備を進めていると発言しました。その後2ヶ月近く経ちますが、この調査結果については何の音沙汰もありません。立地の可否にかかわる調査を九州電力に任せていることも問題です。

▼マグマの供給が続いている始良カルデラ

九州電力提出の資料からも明らかのように、桜島を含む始良カルデラでは、マグマの供給が今現在も継続しています。過去の履歴を見ると、マグマの供給と噴火を繰り返し、そのたびに山体が伸び縮みしています。しかし噴火で山体はもとに戻らず、長期的にゆっくりとマグマが供給され続けている動きがあります。これが巨大噴火を準備している可能性があります。一体どのくらいのマグマが蓄積されているのかは不明です。

▼兆候把握ができない可能性を認める政府答弁書

川内原発の火山リスクに関する福島みずほ議員の質問主意書に対する答弁書で、政府は、巨大噴火について、その兆候が把握できない可能性を正直に述べています。

答弁書は「巨大噴火については、その前兆を捉えた例を承知していないが、一般論としては、噴火の規模によっては、地下からのマグマの供給量が大きく増加すると考えられるところ、地殻変動等の監視を行うことにより、噴火の前兆を捉えることが可能な場合もあると考えられる。」とあります。

「前兆を捉えることが可能な場合もある」ということは、「前兆を捉えることができない場合もある」ということです。兆候の把握が不可能な場合があることを認めるのであれば、原発の立地評価は、地震と同様に、活動性と影響の大きさだけで判断すべきです。始良カルデラについては、約3



子どもを守れるのは親しかない

最初はどのような反応がでるか、内心不安があったのですが、話し始めるとみなさん相槌をうちながら真剣に聴いていることがひしひしと伝わって来ました。チェルノブイリ事故の健康影響を話すときには、一瞬このようなことをストレートに話して良いものかひるみましたが、事実として冷静なかたちで伝えるよう努めました。低線量被ばくの健康影響は未だ良く分からない部分もある、しかし影響を少しでも減らす為にできることもあるので、それはやって見よう・・・というような話をしました。

質疑の中で印象に残ったのは、「放射能のことであまり神経質になってそれが返って子どもへの影響がでるのではないか」というものでした。もちろん、あまり神経質になることは良くないが、これまでの尿検査での実例を元にちょっとした心がけで尿から検出されるセシウム量が減ることや、数値が出た場合はフォロー検査で傾向を監視することが重要だというようなお話をしました。地元で尿検査や被ばく低減の活動を協力してくれているSさんの「家庭でもいろいろあると思うが、子どもを守れるのは親しかない。嫁でなく親にならなければいけない」という発言はとても説得力のあるものでした。

結果としてはほとんどの方からの申し込みがあり、夏までの検査予定が一杯になる状況となりました。政府・環境省は「放射線リスクコミュニケーション」と称して少人数の車座対話などで、安全「スリコミ」を進めています。それに対抗した市民リスクコミュニケーション活動のようなものとなりました。

フクロウの会の尿検査

フクロウの会の放射能測定プロジェクトで進めている尿検査は既に223人を対象に延べ255回になりました。尿中のセシウム量を測ることで呼吸や食品から放射性セシウムを取り込んでいないかどうか比較的簡単に調査ができます。きっかけは福島原発事故直後に文科省が出した学校校庭の使用基準（年間20ミリシーベルト相当）の撤回を求めて、福島から要請行動に参加した保護者の方々から、「子どもたちは内部被ばくをしているに違いない」「子どもたちの内部被ばくの実態



を測れないだろうか」という切実な声を受けたことでした。

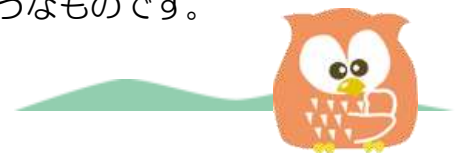
2011年5月22日に福島市内の10名の子どもたちの尿をフランスの市民放射能監視NGO-ACROに送って検査してみたところ何と10人全員の尿から1リットル当たり0.8~2.3ベクレルのセシウムが検出されました。保護者の方々には、すぐその結果を伝え食品や呼吸から取り込まないように注意することを伝え、2ヵ月後に再度検査をする計画を立てました。2回目の検査で10人中9人の尿中セシウム量は減少したのですが1人だけは尿中セシウム量がわずかだが増加しました。この結果から尿検査により日常生活でセシウムを体内に取り込んでいないかが分かり、内部被ばくを減少させる手段として尿検査が有効であることが判ったのです。

内部被ばく防止のために国や自治体が尿検査を行うべき

それ以来、放射能測定プロジェクトとして助成金や寄付金を募って、希望者には無料で尿検査を行っています。尿検査には1検体当たり数万円のコストがかかり、必要な人全ての尿検査を市民団体レベルでできるわけではありません。本来このような内部被ばく検査は国や自治体がやるべきで、それを要求するための具体的な実証データとして使うことを目的としました。

尿検査を継続する中で、尿検査が内部被ばくを低減させるための手段として有効であることが判って来ました。

それは下記のようなものです。



- (1) 高い感度で内部被ばく状態の状況を把握できる。
- (2) 簡単に測定ができる。
- (3) 測定の時間的制約がない。
- (4) 定期測定により傾向の把握ができる。
- (5) 低線量被ばくの危険性を理解するきっかけとなる。

それぞれの詳細についてはフクロウの会発行のパンフレット「シリーズ-子どもたちの尿検査から見えてきたもの Vol.4」等を書きましたので未だ読まれていない方は読んで下さい。

関心を持っていない人達にどのようにして尿検査のことを伝えるか

私達が進めている尿検査の課題は「知らず知らずのうちに放射性セシウムを体内に取り込んでしまっている人」「気にはしているが、具体的にどうしたら良いか分からない」というような人々に対して尿検査をどのようにして勧めるかということです。

尿検査対象者の募集は福島市、伊達市、那須塩原市などの放射能汚染影響を懸念して活動する市民団体・個人の協力で行っています。事故後3年近く経過しますが、政府や自治体による避難者や自主避難者への支援、賠償、生活再建への取り組みは極めて不十分です。それどころか政府、自治体は「年間100ミリSv以下は健康影響はない」などとして「除染から帰還」への動きを強めています。こうした中で、福島周辺で生活する多くの人々が、「放射能のことは考えたくない、聞きたくない、話したくない」という雰囲気生まれてきています。本音では不安に感じている、それを口に出したり行動したりすることがはばかれる状況がより強くなってきています。

こうした状況を反映してか、自家栽培の米や野菜などを食べているような人たちが新たに尿検査を受けたいという人が極めて少なくなってきているのが実情です。わずかに尿検査を受けようと希望する人は、普段から放射能影響を気にかけ、食材などにも注意を払っている人に限られてきています。政府、自治体等による「放射能影響は心配するな」「気にかけて暮らすストレスによる影響の方が問題」とするキャンペーンの中で、低線量被ばくの危険性を理解してもらい、尿検査を受けてみようか、という人をどのように発掘するかが

新たな課題となっています。冒頭に書いた幼稚園の保護者会でのオリエンテーションはそうした課題を進めるための一つの試みであったのです。

尿検査を推進するネットワークの広がり

一方で少しずつ尿検査の意義が理解され、さまざまな形で連携・協力するグループや個人が出て来ています。あきる野市周辺で子どもたちを放射能から守る活動を進める「チャイアのネット」のみなさんは、福島周辺での尿検査を進めるため、「原発事故・子ども支援 WEEK」を設定して地元商店にその期間の売り上げの一部を寄付してもらったり、街頭で募金活動を行ってこの問題を広めるとともに資金集めをして活動を進めています。先述の伊達市のSさん達は「Little hope ~ あなたへ ~」というグループを立ち上げて地元で子どもたちを守る活動を進めています。今回の幼稚園でのオリエンテーションはこうしたネットワークの活動成果です。これ以外にも関西や福島市内で尿検査を進めているグループもありそうしたところとも連携をとっています。

引き続き、さまざまな団体や個人と連携をとりながらこの活動を続けて行こうと考えています。みなさんのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

同行した「チャイアのネット」のTさんからの感想

保原駅を降りた瞬間目に入ったのは、駅前のモニタリングポストが示す「0.39 μ Sv/h」という数値でした。私の住むあきる野市であれば行政が除染をする値です。翌日にかけておこなわれた測定では、もっと高い値のホットスポットがいくつもあり、ここで子育てをしているお母さんたちの気持ちを考えると、胸が詰まる思いでした。

幼稚園での学習会では、「子ども支援 WEEK」の寄付金に詰まったみんなの想いを、集まったお母さんたちに伝えたいと思う一方で、あまりにも不条理な現実を前に、東京から来た自分が当事者であるお母さんたちに一体何を言うことができるのだろう、という思いが錯綜しました。そうした中、地元で尿検査の促進に努めているSさんが、自分の経験を交えながら、「嫁の誰々でも、仕事場の誰々でもなく、母親として、子どもを守って欲しい」と呼びかけた姿に感銘を受けました。これ

からも、Sさんをはじめとする地元のお母さんたちと繋がりながら、私は東京でできることを精一杯やろうと、思いを新たに帰ってきました。

伊達市で「Little hope ~ あなたへ ~」を立ち上げたSさんからの感想

事故後、右往左往しながら生活し何を信じてよいのか？誰を信じてよいのか？という日々でしたがこの尿検査と出逢い私は、何か救われた感じがしました。

今回、このような勉強会をお世話になった幼稚園を通して行くことに対して、はっきりいって不安

もありました。福島で生活している方々の考え、思い。そして、今、私たちがおかれている現状は…と。

私の子どもが通園している時、一切この話題に関しての話をしたりしませんでした。誰がどのように気をつけているか？など全くわかりません。だからこそ、今回の勉強会のような場がここ福島には必要だと実感しました。

自分の子どもはもちろん。1人でも多くの子どもが健康で過ごす事が出来るよう祈ると同時に私が出来ることを積み重ねていけたら…と強く感じました。



フクロウの会発行のパンフレット紹介

シリーズ - 子どもたちの尿検査から見えてきたもの

Vol.4「低線量被ばくによる健康被害を防ぐために

予防原則にたった健康管理体制の充実を」(2014年1月発行)

初編「福島の子どもたちの尿検査から見えてきたもの」(2011年11月発行)

続編「続・子どもたちの尿検査から見えてきたもの」(2012年4月発行)

Vol.3 福島県「健康管理調査」で子どもたちの健康は守れない

継続検査で内部被ばく低減を(2013年1月発行)

☆入手ご希望の方は件名をパンフレット希望としていただいて、ご希望のパンフレット名、冊数、

送付先(郵便番号、住所)、氏名をご連絡ください。申込 メール kaoki18014@gmail.com FAX 03-5225-7214

☆代金(カンパ500円/冊)+送料は振り込み用紙を同封しますので受け取り後振り込んで下さい。

科学的とは何か 不安からの解放

科学的とは何か。これまでに体系化された知識や経験のことを科学、と呼んでいるだろう。現代の科学は(そしておそらく永劫)すべてを解明できているわけではなく、万能ではない。

そのことを理解し、現時点の科学で説明できない都合の悪い事実についても排除せずに向き合う姿勢を科学的、と呼べるのだと思う。

「ストレスが原因で鼻血が出たのかもしれない」と言うことは良くて

「被ばくが原因で鼻血が出たのかもしれない」と言うことはいけないのだとしたら

そこには科学とは別の視点が入り込んでいる。

「不安をかきたてるから」言うてはいけないのか。なぜ不安になる人がいるのか。危険から逃れるための移住が完了していて、その発言が状況の変化につながるものでないのなら黙って笑顔で過ごすということも選択肢の一つだ。しかし現実には危険を否定できない不安を抱える地で移住よりも帰還が促進され、未解明なことはないことにされ、安全神話をばらまかれ、神話を信じないことを責められるような状況の中で、事実や不安について発言し、状況を良い方向に変えたいと願うことは、無意味なことや責められることではないと強く思う。

しなくてはならないことは、真摯な発言をふさぐことではなく、不安を感じる状況に置かれている人々をその不安から解放すること。不安からの解放は、根拠のない安全神話を信じ込ませることによらず、適切な補償を伴った避難・移住や健診の充実などによる本当の解放でなければならないと信じる。



ぽかぽかプロジェクト

3月南房総・5月猪苗代実施報告



「福島ぽかぽかプロジェクト」は、線量が高い地域に住んでいる子どもたちに心身共にリラックスして、野外でのびのびと遊べる機会を提供するために、週末などに線量が低い場所に滞在してもらう民間保養プロジェクトです。3月春休みには南房総で、5月GWには猪苗代で、実施することができました。参加したぽかぽか事務局の矢野さんの報告をブログから抜粋してお届けします。詳しくはぜひぽかぽかブログをのぞいて見て下さいね♪

<http://ameblo.jp/pokapro>

3月南房総



3月24日～28日、南房総にて4泊5日の福島ぽかぽかプロジェクト（南房総で4回目）を開催いたしました。小学1年生から中学2年生まで6名の男子と9名の女子、南房総の初参加者は5名でした。芳賀ちゃんを始め、みおちゃん、イルカさん、あっちゃん、ちーちゃん、あきちゃん、くすの木のおじさんや食事を作ってくださいるおばさんたち、南房総の温かい気持ちの中で、大きな家族のように過ごしました。また今回は、富浦のいきいきクラブのみなさん、館山の凧上げの会のみなさん、地元の元気な高齢者の方々に出会い、一緒に活動をできたことで、南房総をとっても親しく身近に感じる事が出来ました。このメンバーが高校生になり、スタッフ参加の形でこのぽかぽかに参加してくれるまで、あともう少し、そして参加したみんながお友達を連れてやってきてくれる。長く続いていくぽかぽかを思って、心がとっても温かくなりました。



5月猪苗代

5月3-4-5日に猪苗代のシェアハウス・マミーズタミーでぽかぽかプロジェクトを開催いたしました。4才から中学1年生までの子ども10人の7家族20名が参加しました。

桜満開の猪苗代の自然の中で、散策したり、思いっきり公園で遊んだり、シェアハウスの中でも、子どもたちは走り回ったり、はしゃぎまわりました。また、夜には猪苗代の内科医今田かおる先生が講演をしてくださいました。子どもたちに「命の次に大切なもの」を朗読していただき、大人向けにはベラルーシの研修報告やドイツシエナの市民活動の話をしてくださいました。今回は、公益財団法人共生地域創造財団さまより全面的に食材の支援をいただき、九州の野菜たっぷりの食事を食べることが出来ました。大きい子どもたちがお手伝いをしてくれた食事作りは、お母さんたちと話しながらの楽しいひと時、子育ての悩みや放射能の不安、自然といろいろな話が飛び交います。初めて会う子どもたちもそうですが、初めて会うお母さんたちがすぐに仲良くなり本音で話が出来ると、同じ思いの中で生きているからなのかと、子どもだけでなく自らの健康に不安を抱えるお母さんたちの話に、継続的に支援する必要と大切さを強く感じた3日間でした。

みなさまのご寄附によって支えられています。
<お振込み口座>

- 1) 東邦銀行本店・普通口座 3697748
口座名義：わたり土湯ぽかぽかプロジェクト
代表 菅野吉広（かんのよしひろ）
- 2) ゆうちょ銀行・記号 18230・番号 29132261
口座名義：わたり土湯ぽかぽかプロジェクト

※口座にお振込後、FAXまたはメールなどで、
1)お名前（団体名）、2)金額、3)連絡先、4)メッセージ、
5)お名前・メッセージの公開可否などをご連絡下さい。

e-mail:pokapoka.watari@gmail.com Fax: 03-6907-7219

次回は7月に
猪苗代の予定
です♪



活動日誌
(3月23日~5月11日)

- 3/23 【集会】「原発事故で避難は可能？ 柏崎刈羽原発と防災計画」共催
- 3/24~28 ぼかぼかプロジェクト@南房総*
- 3/29 福島市線量調査と聞き取り共同で実施
- 4/10 原発再稼働を考える超党派の議員と市民の勉強会 第2回-川内原発の再稼働審査の問題点-参加
- 4/16 【緊急院内集会】川内原発の火山リスクと再稼働審査参加
- 4/20 フクロウカフェ開催
- 4/28 福島原発告訴団にて阪上代表講演
- 4/30 【政府交渉】川内原発火山・汚染水・防災避難計画
- 5/3~5 ぼかぼかプロジェクト@猪苗代*
- 5/9 【要請アピール行動】川内原発・火山リスク無視するな！開催#
- 5/10 伊達市私立幼稚園保護者会で尿検査のオリエンテーション
- 5/10~11 伊達市内線量調査、土壌サンプリング、大気中塵埃測定準備
- 5/10・11 川内原発地元戸別訪問参加

その他 福島ぼかぼかプロジェクト、ちくりん舎、規制庁前行動、FFTV、秘密保護法反対運動など他団体と共同で活動中

*ぼかぼかプロジェクトでの活動
#原子力規制を監視する市民の会での活動
☆放射線被ばくと健康管理のあり方に関する市民・専門家委員会での活動
♪ちくりん舎での活動



フクロウ・カフェ

不定期ですが、原発、放射性物質、規制の在り方、避難の権利などについていろんな想いを共有し、お話ができる場としてフクロウ・カフェを開催しています。色々な疑問や不安、私はこう思う！などなどみんなでお話しませんか？

次回6月開催予定 決まり次第ご案内 いたします。

どうぞお気軽にご参加下さい。
※次回開催日時について確実にご案内をご希望の方はフクロウの会までご連絡先をお知らせください。



**「桜島も怒っている！
火山リスク無視の川内原発
再稼働は許しません！」
緊急署名にご協力下さい**

お気軽に♪

フクロウの会では、会員・サポーターを募集中です。
会員・サポーターには通信を郵送します。



- 【会費】・会員 1000 円/月 ・サポーター1000 円以上/年
- 集会でのスタッフやパンフ作成のご協力など一緒に活動していただける方を募集しています。
- 皆さまの貴重なご意見もお待ちしております。

フクロウの会の趣旨にご賛同いただき、会員・サポーターになっていただける方は、フクロウカフェなどにお越しの際に申込書にご記入の上、会費を添えてフクロウの会事務局員にお渡しください。

【お問い合わせ・お申し込み先】

TEL : 03-5225-7213 FAX : 03-5225-7214 Email : fukurounokai@gmail.com
(通信郵送のお申し込みもこちらで受け付けています☆ご希望の方はお知らせください。)

